

(国語科)

言語能力を養い、意欲的に学ぶ子どもの育成

— 書く力を高める指導の工夫 —

大阪市内新今宮小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、令和3年度から2年間、国語科を中心に、授業の中で話し合う活動を積極的に導入し、「対話的な授業づくり」に焦点を当てた研究実践を進めてきた。また、令和5年度においては、誰一人取り残さない学力の向上をめざして、子どもが主体的に取り組む授業実践を進め、主体的・対話的な授業づくりにおいて一定の成果を収めることができた。

その一方で新たな課題も明らかになった。それは、「書くこと」に苦手意識をもつ児童が多いということである。そこで、今年度は国語科を中心に、様々な教科で言語能力を高めるための言語活動の設定の工夫や、書くことへの苦手意識、抵抗感を軽減させる手立てを考え、自分の考えを表現する力「書く力」の向上に向けた授業実践の研究に取り組み、研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

令和5年度大阪市学力経年調査国語科の結果を見ると、大阪市の平均を下回っており、さらに「書くこと」においては、大阪市平均を大きく下回っていた。この結果の原因として考えられることは、問題文を読み取る段階で、一定量の文を最後まで読み切る力や、読んだ文から必要な情報を抜き出す力、図と表などの非連続テキストと文を結び付ける力が不十分であるということである。また、書く段階において、自分の考えを書いて表現する力（表現方法）や、与えられた条件（○字以上○字以内、○○の資料から）に合わせて書く力などが十分でないことが考えられる。そこで、国語科はもちろん、すべての教科等において、書くための学習の基盤となる言語能力を養うことをねらいとした。また、全学年で視写を行い、書くことの抵抗感を軽減させるような取組も進めている。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①書く力を高めるための指導の工夫

まず、本校全体の書く力の基礎を築くために、小学校・中学校全ての学年で視写に取り組む。

次に、自分の考えを書くためには、なぜそう思ったのかという根拠をもち、それに理由をつけて順序よく書くことが大切であると考え。根拠を見つけ、自分の考えを深めていく指導についても研究を進める。

さらに、どの教科の教科書も学習内容は文章で説明されており、その文章を「読む」ことができなければ、内容を理解し、それをもとに自分の考えを書いて表現することはできない。そこで、書くための基礎である言語能力を高める学習活動を設定し、「文節に正しく区切る」「『誰が』『何

を』『どうした』のような構造を正しく認識する」など、文章の読解に必要な力を身に付けさせ、文章を正しく読み取り、自分の考えを表現できるようにする。

このように、書く力を向上させるために、それぞれの学年の実態に応じた取組を行い、「書くことが楽しい」「書いて伝えたい」と授業の中で児童が実感できるような授業実践に取り組む。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 全学年で視写を実施した。結果として、全学年で1分間あたりに書くことのできる文字数は増えた。さらに、語彙が増えたり、文節や段落のまとまりを意識したりするようになった。6年生「イースター島にはなぜ森林がないのか」では視写の発展的な取組として、リーディングスキルのプロセスを取り入れた視写を行った。読み取る力の向上に有効な手立てだと思われる。
- 児童の発達段階に応じたワークシートやヒントカードを作成したことで、主体的に取り組むことができた。すまいる学級「だいつはかせになろう」では、児童の実態に応じて選択式や穴埋め式、自由式のワークシートを作成したことで自分の力で根拠となる本文を見つけることができ、自信をもって書く活動に取り組むことができた。
- 毎時間の振り返りを行ったことで、学びの自己調整をすることができ、指導者の授業改善につながった。3年生「サーカスのライオン」では、毎時間の授業の最後に、叙述から読み取ったじんごの気持ちや様子を書き溜め、単元終末にじんごに手紙を書く言語活動を設定した。児童は、根拠となる文をもとに自分の考えを手紙に書くことができた。また、その振り返りの内容は指導者においても児童の学習到達度を評価することができ、次時の学習に向けての指導改善にもつながった。
- 明確な言語活動を設定したことで、児童が目的をもって書く活動に取り組むことができた。2年生「どうぶつ園のかんばんとガイドブック」では、学習したことを生かして、生活科「おもちゃランド」で作成したおもちゃの看板とガイドブックを作成することを伝えた。そうすることで、単元を通して学習したことを、自らの看板やガイドブックに生かそうと主体的に学習活動に取り組むことができた。
- リーディングスキルの観点を取り入れた読みをすることによって書き手の意図に迫ることができた。5年生「新聞記事を読み比べよう」では、新聞記事を読み比べて自分の考えを書く取組を行った。その際にリーディングスキルにおける読解のプロセスを取り入れたことにより、内容を正確にとらえることができ、自分の考えを書くときも記事と写真に合った見出しを考えて書くことができた。

(2) 今後の課題

- 読解力向上に向けた視写の取組を進めていく。
- 読むこと書くことが苦手な児童へのさらなる支援を工夫していく。
- 発問や板書計画など教材研究をより深く進めていく。